



ホールクロップサイレージ用イネの収穫適期

米の生産調整の強化により、水田の多様な利活用が強く求められている。その一つとして、飼料イネのホールクロップサイレージ(WCS)利用が導入されつつあるが、その収穫適期は明確でない。

そこで、WCS用とされる飼料イネの品種系統について、良質サイレージ調製のための水分含量、乾物収量、TDN(可消化養分総量)収量を検討し、その収穫適期を明らかにしたので紹介する。

【稲ホールクロップサイレージとは】

稲ホールクロップサイレージ(稲発酵粗飼料)は、稲の子実が完熟する前に子実と茎葉を同時に刈り取り、密封して発酵(サイレージ化)させた粗飼料である。

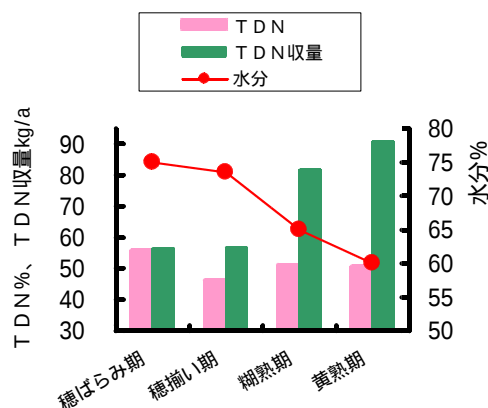
【収穫時期と水分含量及び収量】

1. 稲体の水分含量は、糊熟期(出穂後の積算平均気温約600)以降の好天時であれば、サイレージ発酵に最適な水分含量の60～65%まで低下し、予乾無しで調製が可能である。
2. 乾物収量は、各品種系統とも収穫時期が遅いほど多くなり、黄熟期(同約850)ではa当たり150～190kgが得られる。

第1表 品種系統の出穂期及び乾物収量

年 度	品種系統名	出 穂 期 月日	乾 物 収 量			
			穂ばら み期	穂揃 い期	糊熟 期	黄熟 期
			kg/a	kg/a	kg/a	kg/a
平	北陸168号	7.31	72	102	148	170
成	西海204号	8.19	117	130	165	184
12	ホシユタカ	8.23	107	129	162	183
年	スブライス	8.22	113	132	164	179
平	北陸168号	7.27	67	103	142	154
成	西海204号	8.17	112	133	159	190
13	ホシユタカ	8.20	110	128	158	184
年	関東飼206号	8.18	96	118	161	182

注)久住試験地内における移植(5月8,9日)栽培の成績



第1図 収穫時期別水分、TDNの推移
注)平成12年試験地内4品種系統の平均値

3. TDNは、各品種系統間に差は無く、穂ばらみ期(出穂期前約8日)から黄熟期の間では、穂ばらみ期が55%程度と高く、穂揃い期は45%程度と低い。糊熟期と黄熟期は同程度で50%程度である。

4. TDN収量は、穂ばらみ期と穂揃い期は同程度で少なく、糊熟期、黄熟期と多くなり、黄熟期ではa当たり80～90kg程度が得られる。

【収穫適期】

良質なサイレージ調製ができ、栄養収量の多い飼料イネホールクロップサイレージを得るには、収穫は、糊熟期以降が良く、黄熟期が最も優れる。この収穫適期(糊熟期～黄熟期)は、出穂時期や標高によって変動するので、右の表を参考に作業計画を立てるとよい。

第2表 ホールクロップサイレージ用イネの収穫適期目安表

出穂期	7月31日	8月10日	8月20日	8月31日	9月10日	9月20日
標高0m	8/23～9/1	9/2～12	9/13～24	9/26～10/8	10/8～20	10/22～11/5
150m	8/23～9/1	9/3～13	9/14～26	9/27～10/10	10/9～23	10/23～11/9
300m	8/24～9/2	9/3～13	9/15～27	9/28～10/12	10/11～27	-
450m	8/25～9/3	9/4～14	9/16～29	9/29～10/14	-	-
600m	8/25～9/3	9/5～15	9/17～31	9/30～10/16	-	-

注1)収穫適期は糊熟期(出穂後積算平均気温600)～黄熟期(同850)への到達日を示す。

2) 標高及び出穂期が例示の間の場合は前後より推定する。

3) 本表は平年の気温で推移した場合を示しており、気温等で前後するので目安として利用する。

(水田利用部・久住試験地)